

C—43 女性の西欧式服飾の色のコーディネート 感覚に関する研究

上戸学園女短大 吉川 和志

1. 日本の若い女性が、西欧様式の服飾の各部の色のコーディネートについて、どのような配色感覚をもつかを明らかにしようと試みた。

2. 予備研究により、服飾の配色における基準服飾品がコート、ドレス、スカートであること、ならびに、基準服飾品の種類により、それと配色関係の濃い関連服飾品が異なること(色研:色彩研究 15, 4, 20~31, 1968)および、基準服飾品の基調色が紫みの冴えた赤、濃い紫みの青、茶、明るい灰、黒、白などであること(消費科学, 11, 3, 142~157, 1970)を確かめた。本研究では、基準服飾品の色をそれぞれの基調色などから選んだ各3色に設定し、この色とコーディネートする帽子、靴、手袋、ハンドバッグ、ネックレス、イヤリングなどの関連服飾品の色についての考え方を、東京大阪の若い女性800人につき、専用色票とアンケートにより調査した。

3. どの関連服飾品についても、選ばれた色は、著しい集中を示した。基準服飾品の色により、関連服飾品の種類により、コーディネートするとして選ばれた色は、特異な分布特性を示すが、総じてみて、基準服飾品の色と同一の色相、色相環上にて近接する色相、同一のトーン、濃淡の関係にあるトーン、および、白、黒などに高い集中を示すことが考察された。